

令和8年(2026)は、^{せきとうとういん}関藤藤陰没後150年という節目の年にあたります。

関藤藤陰は、文化4年(1807)に小田郡吉浜村(現在の笠岡市吉浜)で生まれました。長じ^{らいさんよう}て頼山陽の塾で重きをなし、『日本政記』の完成に関わりました。また、福山藩に登用されて、老中・阿部正弘^{あべまさひろ}の腹心として活躍^{ぼしんせんそう}。戊辰戦争の際には福山城に攻め寄せた長州軍と命がけで交渉して福山を戦禍から救い、明治9年(1876)に亡くなりました。

幼い頃に父母や育ての親と死に別れて、^{しつきん}後月郡の医師・石川氏の養子となり、その後福山や江戸で活躍したこともあって、地元笠岡市に関藤藤陰ゆかりの史料はほとんど残っておりません。

そこで今回の企画展では、関藤藤陰の功績を皆様にご紹介することを第一の目的といたしました。本展示により、関藤藤陰という優れた先人がいたことを、皆様にお伝えすることができれば幸いです。

● 関藤藤陰年表

年代												年齢	関藤藤陰
明治九年	明治元年		安政四年	安政三年	嘉永六年	弘化三年	天保十四年	天保十三年	天保三年	文政十一年	文化四年		
一八七六	一八六八		一八五七	一八五六	一八五三	一八四六	一八四三	一八四二	一八三二	一八二八	一八〇七		
70	62		51	50	47	40	37	36	26	22	1		
病のため、東京で逝去する	福山城を包囲した長州軍と和睦を結び、福山城下を戦禍から救う		蝦夷地(北海道・樺太)の探検におもむく	蝦夷地(北海道・千島列島)の探検におもむく	弘の命で浦賀視察におもむく	ペリー来航にあたり、阿部正弘側御用となる	福山藩主・阿部正弘の侍講兼御側御用となる	福山藩に儒官として採用される	福山で開塾する	『日本政記』を完成させて病死した頼山陽にかわって『日本政記』を完成させる	頼山陽の山陽塾に入門する	吉浜村(現在の笠岡市吉浜)で生まれる	
年代												年齢	全国のできごと
明治一〇年	明治元年	慶応三年	安政五年		嘉永六年		天保十四年	天保十二年	天保八年	文政八年	文化六年		
一八七七	一八六八	一八六七	一八五八		一八五三		一八四三	一八四一	一八三七	一八二五	一八〇九		
西郷隆盛らが土族の反乱(西南戦争)をおこす	戊辰戦争が始まる	将軍・徳川慶喜が朝廷に大政奉還する	安政の大獄が始まる		アメリカ東インド艦隊司令官・ペリーが浦賀に来航する		阿部正弘が幕府老中に就任する	老中・水野忠邦が天保の改革に着手する	大塩平八郎の乱がおきる	幕府が異国船打払令をだす	間宮林蔵が、樺太が島であること(間宮海峡)を確認する		

関藤藤陰

国第一流の人――



0【土】
7【日】
10/9【金】
1/8【金】

土館
3628-10]

12/27【日】

展示解説 11/28【土】
午前10時～

せきとういん
関藤藤陰 1807年(文化4)～1876年(明治9)

● 電話 0865-63-7600